

第4回委員会後にいただいたご意見・ご提案への対応

委員名	No	意見要旨	対応方針
樋口委員	1	P2-28 「機能は増加していません。」とあるが、「機能が向上しました」と矛盾するような表現のため、「施設数は増加していません」の方が正しく伝わる。	左記のとおり修正する。
	2	P3-2 「3つの拠点」という表現が唐突に出てくるが、その説明が見当たらない。説明が必要かどうか。	改定計画書素案第3章（1）2）に追加する。
	3	P5-2、P5-3、P5-6 「各拠点」、「都市機能誘導区域」、「拠点地区」と異なる表現がみられるが、同じ範囲のことを指しているようにも思える。 全体を通して、似通った異なる表現は避けたほうが良い。	全体を確認し、表現を修正する。
松川委員	4	P1-5 「包括的」との表現は避け、持続可能なまちづくりを目指す計画である旨を入れてはどうか。 各種計画との関連に「国土利用計画（長岡市計画）」を追加する。	「持続可能かつ安全・安心なまちづくりを目指す計画」に修正する。 「国土利用計画（長岡市計画）」を図中に追加する。
	5	P2-8 土地区画整理事業箇所図と人口推計の関係性について説明を追記すること。	「昭和55年以前に土地区画整理事業が行われた地区において、高齢化率が高い傾向にあります。」を追記する。

松川委員	6	P2-12 図に追加施設、削除施設の更新履歴は残した方がよい。 第6章も同様。	ご提案のとおり、更新履歴は残す。
	7	P2-24、P4-7 出典は正確か。 P2-24の図は想定最大規模、P4-7の図は計画規模でよいか。 違いを明確にした方がよい。	P2-24、25の出典について、ご指摘いただいた国土数値情報の基となる根拠資料より記載する。 P2-24、25の図は想定最大規模の降雨による浸水想定である。 P4-7については、想定最大規模及び計画規模による浸水想定を記載して修正を行い、確率年の説明を追記する。
	8	P8-7（P8-2） R2中間評価の実績値は、H27国調の実績値から算出したR2推計値のことか。分かりにくいため、P8-2で評価の考え方について追記した方がよい。	「H27国勢調査による推計値」に修正する。
	9	P8-10 文字が小さく見にくいため、工夫してほしい。	表を拡大し、2ページで示す。
	10	P9-16 白地地域の凡例に市街化調整区域を併記する。	左記のとおり修正する。

松田委員	11	P4-7 計画規模、想定最大規模はいずれも降雨についての確率年なので、表現に工夫が必要ではないか。	ご指摘のとおり降雨に関する確率規模である。誤解を与えることが無いように説明を記載する。
小村委員	12	P5-4、P5-7、P6-4、P6-15、P8-10 高齢者基幹包括支援センター」が、「社会福祉センタートモシア」から「さいわいプラザ」に移転（R4.7月）することに伴い、掲載箇所の修正が必要。	本計画の改定では、中間評価年度である令和２年度末（令和３年３月31日）を基準日として評価を行う。本計画書案では、「高齢者基幹包括支援センター」は「社会福祉センタートモシア」内として修正せず、次回評価年度に反映する。
	13	P9-7 利便性が高く、災害に強い都市拠点エリアは、高齢者にとっても安全安心な居住環境である。このエリアへの「自立した元気な高齢者」の住み替え支援策は、都市のにぎわい・商業の活性化への貢献度も大きいと考える。「ケアの必要な高齢者」の居住施設立地（有料老人ホーム等）に特化することなく、「適度な経済力があり自立した元気な高齢者」を対象とした住み替え支援策が、超高齢社会の現在、都市の活性化にとって有効な政策と考える。	元気な高齢者がまちなかへ住み替えていただくことは、居住誘導の観点からも有効な施策である。 それは、高齢者だけではなく、あらゆる世代に共通することでもあるため、全世代を対象にまちなかへの居住誘導を図る取組を行う。 改定計画書素案第9章に記載した支援事業では、支援対象者がわかるように「主な対象者」を追加した。